

〈入試科目の見方〉

公募推薦入試のみ受験の場合は、各入試科目の「公募推薦」の欄についている◎が受験科目になります。また、公募推薦入試と給費生入試を同時出願する場合は「給費生」の欄の◎が受験科目になります。

デジタルミュージックコース

試験科目	内容	注記	A O	給 費 生	公 募 推 薦	一 般 期	一 般 後 期
1 主科実技課題	以下の(1)~(3)のいずれか1つを選択する (1)与えられたコードネームにもとづいて旋律を作曲する(16小節程度、60分。試験時における楽器の使用は認めない)。 (2)作文 デジタルテクノロジーと音楽のかかわりについて、または任意の音楽作品について自由に述べる(1000字程度、60分)。 (3)作品提出 自作品の楽譜またはAudio CDを出願時に1曲提出(編曲作品は除く)。		◎	◎	◎	◎	◎
2 楽典	筆記試験(60分)		◎	◎	◎	◎	◎
3 ソルフェージュ課題	以下の(a)~(c)のいずれか1つを選択する (a)旋律聴音2題 (b)F.Wüllner: Chorübungen der Münchener Musikschule(コールユーブンゲン第1巻) No.33~59(原書番号)の中から1曲を当日指定 (c)新曲視唱	※聴音および新曲視唱の実施方法と例題は●ページを参照。唱法は固定ド、移動ドいずれでもよい。	◎	◎	◎	◎	◎
4 副科ピアノ	自由曲1曲(電子オルガンでも受験可)	※繰り返しなし。暗譜でなくてもよい。 ※電子オルガンの使用機種は、以下の中から出願の際に選択する。 ・YAMAHA ELS-01C ・YAMAHA ELS-01XU ・YAMAHA EL-900m ・KAWAI DT9 ・KAWAI DT7 ・Roland AT-900C ・Roland AT-80S データメディアは音色およびシーケンス用データとしてのみ使用可。自動演奏は不可。	◎	◎	◎	◎	◎
5 主科面接		※主科実技に対する試問を含む。	◎	◎	◎	◎	◎
6 AO面接		※AO面接は主科面接の中で行う。	◎				
7 給費生作文	指定する作曲家のうち一人を選び、その伝記を読んで、試験当日に課題作文を書く。伝記は単行本に限り、辞書・辞典類の項目は認めない。当日参照不可。/60分 詳細は●ページに記載。			◎			
8 給費生面接				◎			
9 一般科目	A. 本学で行う以下の一般科目(a)~(c)の中から1科目を選択して受験(45分) (a)英語(I・II) (b)国語(国語総合、国語表現I、ただし古文・漢文を除く) (c)数学I					◎	
	B. 大学入試センター試験の成績を利用する 以下の(a)~(f)の中から2教科2科目を選択 (a)国語 (b)地理歴史 (c)公民 (d)数学 (e)理科 (f)外国語	※「国語」「地歴」「公民」「数学」「理科」「外国語」について3教科・3科目以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用。判定の際、各科目毎100点満点に換算。合否判定に使用できる科目の詳細については38ページを参照。					◎

- 作曲コース
- デジタルミュージックコース
- 指揮コース
- サカドブチコース
- ピアノ演奏家コース
- ピアノ指導者コース
- ピアノ音楽コース
- オルガンコース
- 電子オルガンコース
- 弦響打楽器コース
- ジャズコース
- ポピュラー音楽コース
- 声楽コース
- アトナリズムコース
- 舞台スタッフコース
- 音楽療法コース
- ミュージカルコース
- バレエコース